

雄物川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

下流部に秋田市、中流部に中核都市大仙市を抱え、多くの人口・資産が集中しており、一度氾濫すると甚大な被害が発生
 雄物川流域の年間降水量は、平野部1,500～1,700mm、山地部2,000mm～2,300mm程度となっており約40%が冬期の降雪。洪水要因のほとんどが前線の停滞によるもの

- 凡 例
- : 基準地点
 - : 主要地点
 - : 国道
 - : 高速道路
 - - - : 鉄道路
 - : 流域界
 - : 県界
 - : 想定氾濫区域



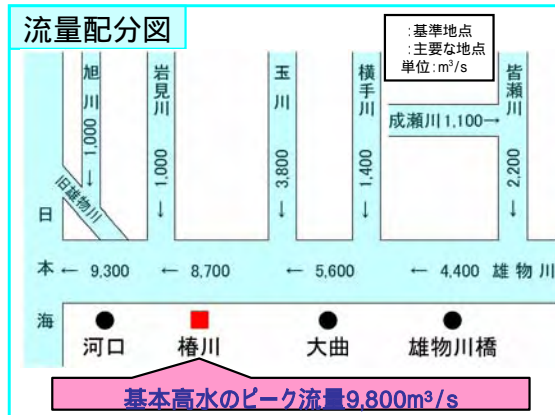
流域及び氾濫域の諸元
 流域面積(集水面積) : 4,710 km²
 幹川流路延長 : 133 km
 想定氾濫区域内人口 : 約 29万人

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する
 樺川地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね80m³/sとする

災害の発生防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等の結果を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点 樺川で9,800m³/sと設定。



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設及び新たな洪水調節施設で対応

上流部においては、堤防の新設、拡築及び河道掘削による河積の拡大、堰の改築等により流下能力を確保

中流部においては、治水対策を早期かつ効果的に進めるため、河道や沿川の状況等を踏まえ、住民との合意形成を図りつつ、連続した堤防による洪水防御だけでなく輪中堤や宅地の嵩上げを実施するとともに、二線堤等の対策を検討のうえ実施

河口砂州の変化及び河道の安定性等について影響をモニタリングしながら適切な維持管理を実施

洪水等による被害を極力抑えるため、既往洪水の実情等も踏まえ、河川堤防や高規格道路等をネットワークする広域防災ネットワークの構築について関係機関と連携し検討



河川環境の整備と保全

サケ科魚類やアユ等の回遊性魚類の遡上環境等の確保や産卵床の保全
 イバラトミヨ雄物型、トミヨ淡水型が生息しており、ワンド等の湧水環境の保全
 支川玉川の上流から湧出する強酸性水の対策については、田沢湖などの自然環境、水利用に与える影響及びこれまでの対策等の経緯を踏まえ、中和処理による水質改善を継続実施
 カヌー体験や花火大会など地域住民の憩いの場として利用されていることを踏まえ、河川に関する情報を地域住民と共有し、河川愛護活動を推進



中和処理施設 (Neutralization treatment facility)